

神戸大学基金

The Kobe University Fund

趣意書

神戸大学は、“知”と“人”を創る
『異分野共創研究教育グローバル拠点』を目指します。

神戸大学創立120周年記念募金のお願い



知・人・共創と協働



KOBE UNIVERSITY

普遍的価値を持つ知見の集積と体系化 傑出する“知”を創る

神戸大学は国際港都・神戸にキャンパスを構え、開放的で国際性に富む文化的・歴史的背景を持ち、神戸高商時代の「真摯・自由・協同」という精神と、大学昇格時の「学理と実際の調和」という理念を今に継承しています。その伝統の具体的なあらわれのひとつが、異分野共創による卓越した先端研究推進と、社会実装に向けた研究成果還元を目指す姿勢です。

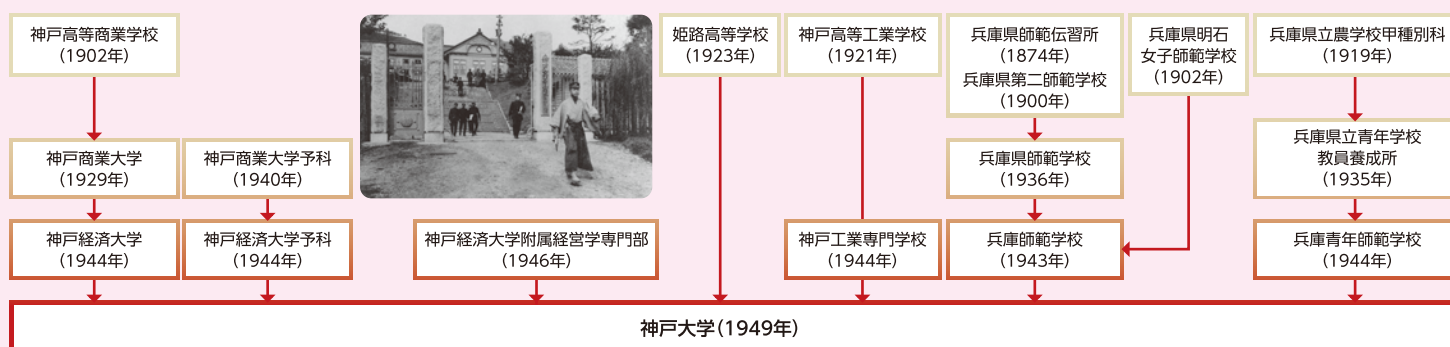
特に、世界的に注目が高まるバイオ&メディカルサイエンスの分野における、「あしたの医療を神戸から。」を掲げる神戸未来医療構想は、本学に医療機器の実証・開発拠点を設置し、産官学の高度な連携からイノベーションを起こす試みです。また、2017年度に設置した未来世紀都市学研究アライアンスは、災害関連のさまざまな研究領域を横断的に融合し、未来の都市像を研究する組織です。さらに、デジタルライフ/ヘルスサイエンス分野での先進的なプロジェクトの立ち上げや、海技のみならず自然科学と社会科学の観点から海洋研究を進めるなど、先端的な研究と異分野の共創により世界に誇れる成果を目指します。

大学の社会的使命のひとつに、知的活動や創造力により“知”を創出し、そのプロセスと結実から新たなイノベーションを産出することが挙げられます。傑出する“知”は、「先端研究の推進」「社会課題を解決する異分野共創研究の推進」「世界で活躍できる人材の育成」「先導的研究成果の社会実装」「大学運営基盤の改革」、という本学の5つの戦略の基盤となる普遍的価値を有し、同時に世界が直面する課題であるSDGsの進展にも貢献するものです。

本学は、“知”の創出により社会実装の推進を目指す新しい“価値”の創造を掲げ、産業界との協働や地域との連携によって市民生活の発展に貢献する使命を自任し、さらなる高みを目指してまいります。

神戸で育まれた 研究と教育の伝統

神戸大学の創立は、1902(明治35)年の神戸高等商業学校設置(翌年開校)を起点としています。同校は旧制大学に昇格し、1949(昭和24)年に新制大学の神戸大学が誕生した際、兵庫県下の歴史ある多くの教育機関を包括・統合しました。



先端的医療機器の研究・開発

神戸大学は、医学と工学の両分野が連携して、国産医療機器の開発に取り組んでいます。2020年には、医学部附属病院で国産初の手術支援ロボット『hinotori™』を用いた、世界で初めての遠隔手術を行いました。続いて、ロボット動作のAI解析、5Gを利用した遠隔手術ナビゲーションなどの研究を進めています。



バイオサイエンス研究の拠点に

人文・社会科学の知見と生命工学系とのコラボレーションおよびデジタルバイオ・サイエンス研究の強化により、デジタル時代にふさわしい世界最高水準の統合研究開発拠点を構築します。

「コグニケア」で認知症予防

コグニケアとは、神戸大学が研究・開発した、認知症や生活習慣病の予防に関するヘルスケア・サービスです。高齢化社会の大きな問題である認知症、生活習慣病、フレイル（老化に伴う活力低下）などの予防や対策につながるメソッドは、各方面から注目されています。

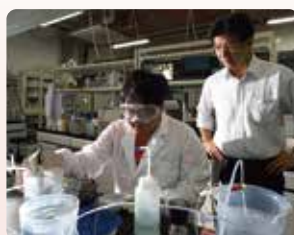


社会システムイノベーションによる課題解決

多様な社会問題の解決を目指すには、先端的な実証研究により問題を分析することが必要です。新たに設置した神戸大学社会システムイノベーションセンターは、社会貢献に直結する一般化・理論化を進めるとともに、学術的にも最高レベルの統合的研究拠点を目指します。

グリーンイノベーションへの寄与

持続可能な社会の実現のためには、SDGsの理念を共有した先端研究が必要です。先端膜工学研究センターは、日本で唯一の膜工学の総合的研究開発拠点として、国際的な研究を展開しています。その成果に産業界からの注目も高まり、様々な分野での社会実装を目指し、多くの研究者が多角的・横断的に技術開発の連携を進めています。



健康長寿社会の実現を目指して

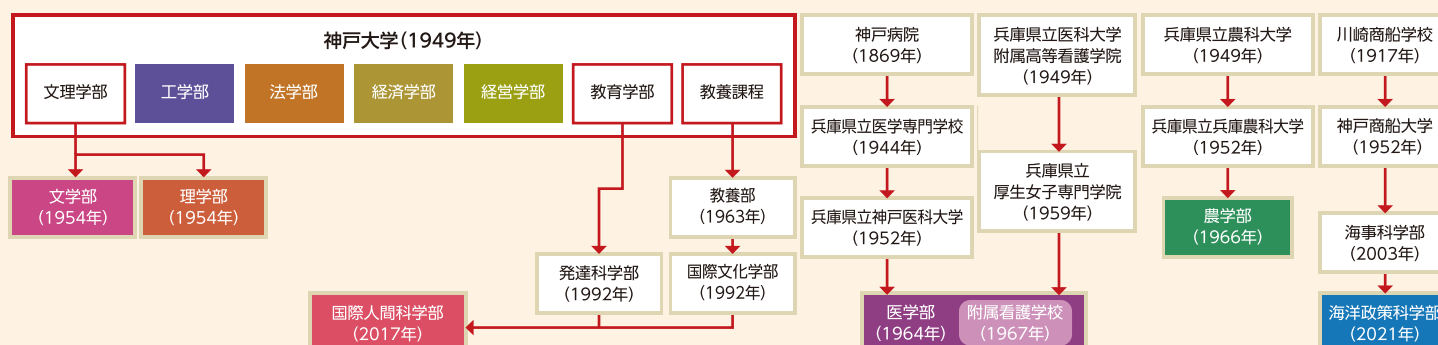
社会の高齢化は、健康・医療の面で様々な課題をもたらします。神戸大学は、健康長寿社会の実現に向けて、情報通信技術（ICT）の活用によるデータ連携を基盤として、デジタルヘルスサイエンス分野で新たな予防・先制技術の開発や実証を進めています。人々の生活や医療に関わる情報を超多項目健康ビッグデータとして構築し、最先端AIを駆使した解析研究に取り組むことにより、人々のWell-being（身体的・精神的・社会的に“健康”な状態）を追求します。

都市の防災・減災に

阪神・淡路大震災を経験した神戸大学は、都市の将来像を防災・減災面から研究する、未来世紀都市学研究ユニットを設置しています。工学・医学・人文学・人間発達科学・経営学など多様な研究領域の知見を集め、研究成果を地域社会や行政、企業に提供する地域連携拠点です。



1949(昭和24)年に6学部を擁した神戸大学は、その後の改組と学校統合による新学部の設置を経て、10学部と15研究科(大学院)、研究所・センターなどの学内組織と附属病院・附属学校などを有する総合大学になりました。



研究と教育の成果を社会に還元・実装 「卓越する人」を創る

神戸大学から巣立った卒業生・修了生は、世界中で活躍しています。大学の使命のひとつは、研究と教育の成果を社会に還元し、さまざまな面で地域や国際社会の発展に貢献することです。従って、優れた人材を輩出することは、社会からの期待にお応えするとともに、大学での学術の蓄積を社会の将来に役立てることに他なりません。

神戸大学に学び研究する学生、研究者、教員が、傑出した知識や技術と高い見識や理性を身につけ、社会性と人間性、加えてリーダーシップを備えた人材として社会で役立つ存在になるために、本学は人材育成の観点、とりわけ価値創造とイノベーションに焦点を当て、時代に即した変革を行っています。

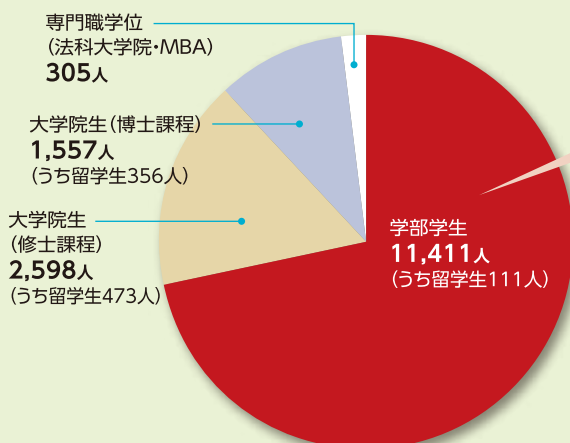
さらに、国際社会での活躍を期して、学部生全員に留学や海外研修を義務付ける国際人間科学部をはじめとして、異文化の理解とコミュニケーションに資するカリキュラム作りに全学で取り組んでいます。グローバルセンスを持つ人材の育成のために、海外協定校とのダブルディグリー制度など、多彩なプログラムを用意し国際協働拠点化を図っています。

また、2021年4月には、海事科学部を海洋政策科学部に改組しました。これは、日本が海洋立国であり、とりわけ神戸が重要な港都として海洋開発と海洋産業の創出・振興に深く関わってきたことによるものです。その伝統を受け継ぎ、“海と人間の共生”の観点から研究を進める海共生(うみともいき)アライアンスでは、海洋環境にかかる政策提言を行い、国際海洋社会を牽引する海のグローバルリーダーとエキスパートを育てます。

社会との共創面では、イノベーション実現に挑戦する人材の育成に取り組んでいます。社会システムイノベーションセンターは、イノベーション創出により社会問題を解決して貢献する、世界最高水準の総合的研究拠点です。あわせて、研究成果を新しいビジネスに結ぶアントレプレナーシップ面でのサポートにも力を注いでいます。ベンチャー企業の起業家を育て、知財・事業・財務戦略の立案と実施を支援する事業会社を設立するなど、社会実装により世界に変革と進歩をもたらす大学発のイノベーション企業を支援しています。

神戸大学で学ぶ学生等の数

神戸大学は国内有数の総合大学として、多くの学生や留学生が学び、研究に励んでいます。2023年5月時点での学生等の在籍者数は、15,871人です(附属学校部を除く)。



文学部	450人
国際人間科学部	1,604人
法学部	781人
経済学部	1,273人
経営学部	1,177人
理学部	725人
医学部	1,370人
工学部	2,453人
農学部	682人
海洋政策科学部*	896人

*海事科学部を含む

博士課程学生のサポート

神戸大学は、産官学の多様な場で活躍できる博士を輩出するために、様々な点で教育・研究・キャリアパス支援を強化しています。この取り組みに対し、2021年度以降、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」や、科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択され、卓越した博士人材の育成と支援を実施しています。

アントレプレナーシップの強化

国際感覚を持ち、自ら課題を設定して創造的に解決できる能力を身につけたアントレプレナーの育成が求められています。神戸大学アントレプレナーシップセンターは、学生のみならず地域の社会人も対象として、教育・実践・起業支援の3つを柱としたアントレプレナーシップ教育と実践プログラムを提供しています。神戸大学からのスタートアップの創出・育成を担うもので、京阪神地域におけるスタートアップ・エコシステムの中核的拠点となることが期待されています。

このような整備を背景に、学生の意識も変わりつつあります。同センターが中心となって、2022年5月に「起業部」が誕生しました。チームでビジネスプランを作成し、国内外のコンテストに応募しながら在学中の起業を目指しています。



データサイエンス教育の推進

産業構造の変化に対応し、資源の宝庫であるデータを分析・解析して価値創造に結びつける人材を育てることを目的に、2017年度に設立した数理・データサイエンスセンターが、急速に発展するICT技術やAIの理解のために「数理・データサイエンス標準カリキュラムコース」を開講しています。全学部生を対象として、データリテラシーの涵養とデータを扱う技術の向上を図ります。学部・系列を超えて、データサイエンスの活用事例を知り、数理・統計の知識やプログラミングのスキルを学びます。また、職業人生の長期化に伴い、リカレント教育部門を設置して、個人のキャリアアップとDXリーダーの育成を目指します。



国際海洋社会を牽引する人材育成

神戸大学は、2021年度設置の海洋政策科学部を中心に、社会科学と海洋学を融合し、国際海洋社会におけるわが国そして神戸のプレゼンスを高め、海洋立国として世界をリードするために必要なグローバルリーダーの育成と研究開発を重視します。

2022年4月に運航が始まった『海神丸』は、海技士養成や最新鋭の観測機器の機能を最大限に発揮する探査船機能に加え、被災地に救援物資や飲料水を運ぶ被災地支援機能を備えています。神戸大学が誇る多機能練習船として、研究・教育・社会貢献に活躍が期待されています。



医工融合型の創造的開発を担う人材育成

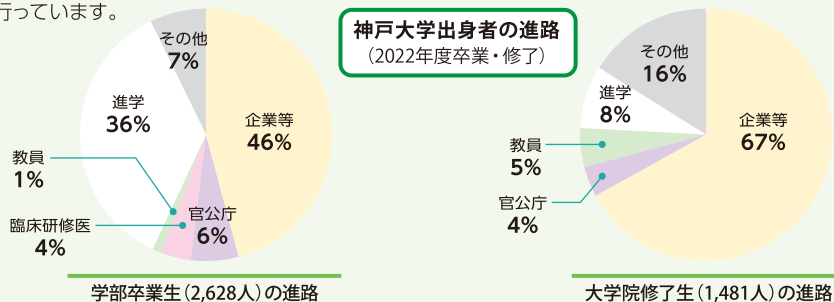
高度管理医療機器の開発体制整備と、その実現のための人材育成は大学への社会的な要請です。患者目線や医療現場目線でニーズを察知・理解でき、複数の職種から構成されるチームのリーダーとなって、新しい医療機器開発を推進できる創造的開発人材が求められています。

神戸大学では、2023年4月に大学院医学研究科に医工融合型の専攻課程を新たに設置し、医学系と工学系の学問領域を学んだ学生が研究を進めています。医学部附属病院など医療現場を実践の場として、新しい医療機器の開発を主導することができる大学院生を育てます。



卒業生・修了生の活躍とキャリア形成への支援

神戸大学の卒業生・修了生の多くが就職し、実社会を活躍のフィールドとします。それぞれが描くキャリアデザインを実現するために、キャリアセンターをはじめ学内の様々な組織が情報提供などの支援活動を行っています。



神戸大学東京オフィス (キャリアセンター東京分室)

首都圏での就職活動の支援や、キャリア形成をサポートする施設が「神戸大学東京オフィス」です。神戸大学基金の支援事業のひとつで、2004年にオープンしました。2014年に有楽町駅前の至便な場所に移り、首都圏の企業訪問やセミナー参加などの際に、また情報収集と交換の場として活用されています。



研究・教育の進展と社会貢献への寄与 秀でた環境の充実と整備のために

これからの神戸大学は、傑出する“知”と卓越する“人”を創る「異分野共創研究教育グローバル拠点」として、いわゆる“ニューノーマル”時代における研究・教育をリードすることを目指しています。その環境を整えるために、ICTの進化とデジタルトランスフォーメーションへの対応、国際交流と共同研究の核となるグローバル・ハブ・キャンパス構想などを軸に、制度やシステム・施設等の充実を図ります。また、実社会と緊密に連携するために、産官学が連携するプラットフォームの構築を進めます。

ダイバーシティへの取り組みも積極的に進めており、文部科学省の2018年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に、本学が申請した事業案が採用され、女性研究者の採用や上位職登用の比率向上などを目標に進めています。

本学は、国立大学の法人化以降、独自の中期計画に基づいて様々な環境整備を行い、特に2006年に創設した『神戸大学基金』を活用し、ご寄附による多くのプロジェクトを実現してまいりました。留学への経済的補助をはじめとする国際交流のサポート、各学部・研究科が主管する研究・教育支援事業、冠奨学金や寄附講座などによる学生のベネフィット拡大など、多彩なジャンルにわたります。

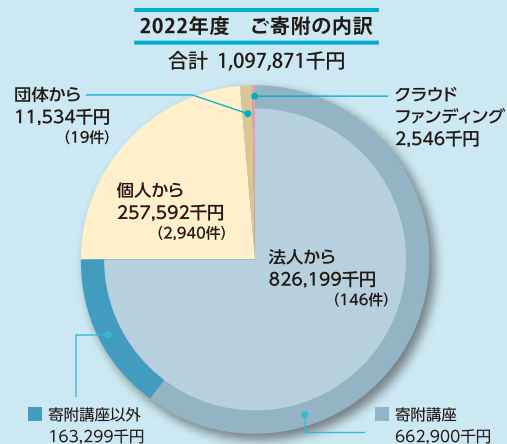
加えて現在、創立120周年を迎え、研究と教育の活性化、また成果の社会還元や実装に向け、“知”の創出と“人材”の育成のための取り組みを強化しています。これらは、“ニューノーマル”体制に対応した、先端的・国際的な研究・教育のスタイルを模索しつつ、高等教育機関としての社会的使命の実現、あわせて継続的・安定的な本学のステータス確立を図るものです。

これら『神戸大学基金』が進める、諸環境の充実を図る各種事業の遂行とさらなる拡充が、本学の目指す「異分野共創研究教育グローバル拠点」の構築には欠かせません。神戸大学に様々なお気持ちをお寄せくださる、多くのステークホルダーの皆様からの温かく力強いご支援により、本学は一層の進展を目指してまいります。

神戸大学基金 ～ 研究・教育の環境を整え、学生生活の充実を

神戸大学基金は、大学運営にかかる自主財源（外部資金）のひとつとして、卒業生をはじめとする個人、企業、団体、地域社会といった様々なステークホルダーの皆様からのご寄附・ご寄贈を活用させていただくために2006年に創設されました。

学生への奨学金給付（修学支援事業）、大学全般の研究・教育や学生生活の環境整備と留学や国際交流のサポートなど（基盤事業）、および学部や研究科（大学院）・担当部門（部局）が分野やテーマごとに目標を定める特定の事業などを支援しています。また、企業などの名を冠した奨学金・研究助成制度（寄附者名称記念事業）や寄附講座など、多様な形でのご理解とご協力をいただき、神戸大学の研究・教育における挑戦と、学生の修学環境の充実を支えています。これらのうち、学生等への直接的支援は、学生の修学と生活の経済的環境を維持・向上するためのもので、国からの大学運営費交付金に頼ることができません。従って、卒業生やステークホルダーの皆様、神戸大学を応援いただく法人の皆様からの支援をお願いせざるを得ず、学生のサポートを安定的かつ恒常的に行えるよう、一層のご支援をなにとぞよろしくお願いいたします。

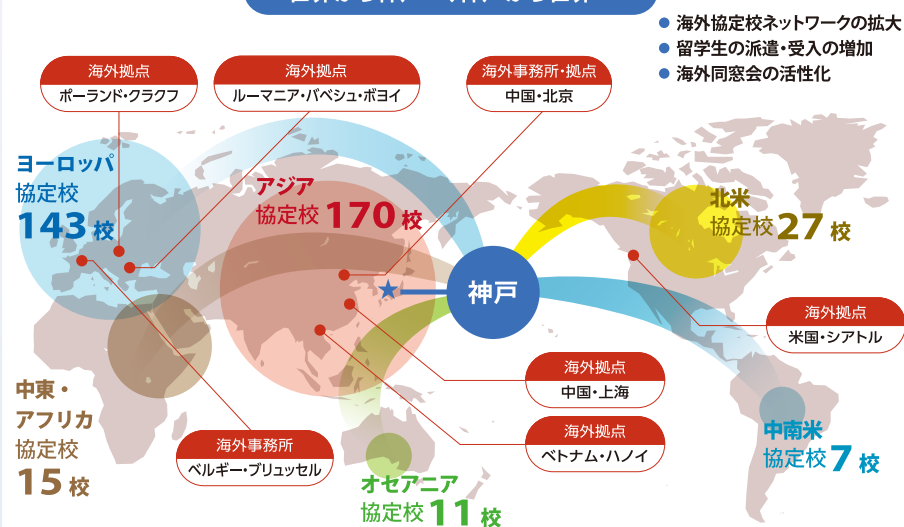


研究・教育の国際的な協働環境を創ります

神戸大学が掲げる「グローバル・ハブ・キャンパス」構想では、世界各地から優秀な人材が神戸に集まるとともに、神戸から世界に向けて研究者を派遣する拠点機能を強化します。あわせて、外国人留学生や研究者との共同研究や、本学のみならず地域社会における国際交流をサポートする設備を整えます。

また、神戸大学に学ぶ研究者や外国人数員を増やし、国際教育の質の向上と外国語による教育も積極的に進めるとともに、留学生の受入環境を整備します。一方で、本学からの留学生への経済的支援を強化するなど、グローバル化への基盤整備を進めます。

～世界から神戸へ、神戸から世界へ～



◆ 海外同窓会数: 30カ所
 ◆ 64カ国・地域にある373の大学・研究機関と学術交流協定を結んでいます。

数字は2023年5月1日現在
 協定校=学術交流協定締結機関

- 海外協定校ネットワークの拡大
- 留学生の派遣・受入の増加
- 海外同窓会の活性化

社会性と人間性を備えたリーダーシップ人材を育てる環境を

キャンパスライフを彩る課外活動は、社会性・人間性を高めるとともに、自らの将来を見据え、「やりたいこと」「やるべきこと」を追究する貴重な経験です。

神戸大学基金は、クラブ活動やボランティアなど課外活動への助成や、クラブハウスやグラウンドの整備などの事業によって、学生の人間的成長をサポートしています。



インクルーシブキャンパスの実現へ

卓越的な研究を支える人材を育成する環境の充実、特に将来を担う学生や若手研究者の支援に力を注ぐとともに、社会的マイノリティーや障害がある人々も学びやすい、ダイバーシティとインクルージョンの観点から多様・多彩な価値観があふれる大学を目指します。様々な個性を持つ学生、研究者、企業人、海外留学生、ステークホルダーに対して質の高いプログラムを提供し、学びやすい環境を整えます。

ICT教育やDXの進展への対応

近年の急速なデジタル社会の進行に加え、コロナ禍による教育システムの変化に対応するために、ICT教育基盤の整備と開発を進めます。本学においても、デジタル教育改革は喫緊に取り組むべき課題であり、盤石なシステムの構築を目指します。

神戸大学は、科学技術イノベーションを牽引する小中学生を育てます

神戸大学には4つの附属学校園(幼稚園・小学校・中等教育学校・特別支援学校)があり、新しい問題を発見・解決でき、世界的な視野を持ってリーダーシップを発揮できる児童・生徒を育てることを目的のひとつに置いています。そのために、大学の研究・教育の知見や成果を各校園の現場で活かし、充実した初等・中等教育を行っています。

神戸大学が2022年度から実施する「神戸みらい博士育成道場」は、附属学校園も含む小学校高学年児童と中学生を対象とした、科学技術イノベーションを牽引する人材育成の2年間にわたるプログラムです。本プログラムは、科学技術振興機構が次世代人材育成事業として展開する、「ジュニアドクター育成塾」(2022年度)に全国計10機関の内の一つとして採択されたもので、未来のイノベーターを育てることを目的としています。

今後も学生や大学院生対象の次世代人材育成プログラム等と連携し、共に学びあう道場的な学びの場を提供することで、わが国の博士人材に必要な科学を基盤としたアントレプレナーシップを醸成していきます。



ご寄附の方法



金融機関等で

別添の払込取扱票に必要事項をご記入の上、金融機関・郵便局でお振り込みください。

※コンビニエンスストアでは使えません。

※ゆうちょ銀行（郵便局）・三井住友銀行・みずほ銀行・みなと銀行・りそな銀行では、振込手数料はかかりません。

1

払込取扱票にご記入ください。

2

金融機関・郵便局の窓口/ATMで手続きください。

金融機関等の窓口及びATMで10万円を超える現金振込を行う場合は、振込をされる方の本人確認書類（運転免許証、健康保険証、パスポート等）のご提示が必要です。



インターネットで

『神戸大学基金』のウェブサイト

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/kikin/>内の、「お申し込み方法」のページをご覧ください。クレジットカード・銀行振込（インターネットバンキング／ATM／窓口）のいずれかの決済方法をお選びいただけます。

ご利用可能なクレジットカード



お申し込み方法



※ご記入・ご入力いただいたおところ・お名前宛てに領収書をお送りします。金融機関等でのお振り込みは入金確認後約3週間、クレジットカード払いをご利用の場合最長で3カ月程度かかることがあります。

上記以外のご寄附について

■現金以外の有価証券、不動産等のご寄附については、企画部卒業生・基金課にお問い合わせください。

■ご遺贈や、相続されたご遺産のご寄附についても、企画部卒業生・基金課にお問い合わせください。

■書籍・CD・DVDをご提供いただき、買い取り額を神戸大学基金に充てる、『神戸大学古本募金』のご利用については、「チャリボン」のウェブサイト<https://www.charibon.jp/partner/kobe-u/>をご覧ください。

神戸大学古本募金



税制上の優遇措置について

所得税の優遇措置

「修学支援事業」に対するご寄附は、確定申告を行う際に**所得控除**または**税額控除**のいずれかをお選びいただけます。

※「修学支援事業」以外に対するご寄附の所得税の優遇措置は**所得控除**のみとなります。

所得控除

寄附金額（その年の総所得金額の40%を上限とする）から2千円を引いた額が所得税の課税所得金額から控除されます。

税額控除

寄附金額（その年の総所得金額の40%を上限とする）から2千円を引いた額の40%が所得税額から控除されます。（その年の所得税額の25%が上限）

《減額される所得税の目安》

例：給与収入700万円・課税所得400万円の方が3万円寄附した場合

所得控除

$(3万円 - 2千円) \times 20\% (\text{所得税率}) = \underline{5,600円}$

税額控除

$(3万円 - 2千円) \times 40\% = \underline{11,200円}$

※上記の金額はあくまでも目安です。一定の寄附金額または課税所得金額を超えると、**所得控除**の方が減税額が大きくなります。

個人住民税の優遇措置

神戸大学を寄附金控除の対象法人として条例で指定している都道府県・市町村（兵庫県・神戸市）にお住まいの方は、個人住民税の控除を受けることが出来ます。詳細な控除率は総務省ホームページ（個人住民税の寄附金税制の概要）をご覧ください。所得税の確定申告を行う方は住民税の申告は不要です。確定申告を行わず個人住民税の寄附金控除のみを受ける場合は、自治体に申告をお願いいたします。

神戸大学基金に関するお問い合わせ

神戸大学企画部卒業生・基金課

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1

TEL: 078-803-5414（平日9時～12時、13時～17時）FAX: 078-803-5024

E-Mail: kikin@office.kobe-u.ac.jp

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/kikin/>

神戸大学基金

検索

